

## 平成19年度離島人材育成基金助成事業一覧

市町村名	事業名と内容(趣旨)	事業申請者
宮城県 気仙沼市	【車椅子生活している子供たちとの海水浴による交流事業】 海に入る機会の少ない車椅子生活の子供達と地元の子供達との交流の場を設け、小田の浜海水浴場は弱者に優しい海水浴場であることをPRし、地域活性化に資する。	気仙沼大島観光協会 会長 白幡 昇一
東京都 神津島村	【神津小、長野市吉田小交流支援フォーラム】 51年前、海と山の小学生が文通をはじめ、その文通仲間の初対面がH18.4に実現。そして両校の交流が再会し、これを機に新時代に相応しい今後の交流を支援する公開討論会を行う。	地域間交流推進委員会 代表 石田 昭子
東京都 三宅村	【三宅島海洋教室指導者養成事業】海洋生物学者故ジャック・モイヤー博士等が島の海と自然を学びの場として海の教室を開催。こうした活動の継承と新たな創生を図るため、若者を海の体験活動指導者に育成し、海洋産業の活性化を図る。	穴原 美奈
新潟県 佐渡市	【湊いっき 湊地域活性化事業】 古くから残る街並みを活かし、湊地区ならではの露天市を交えたイベント「湊いっき」を開催。北一輝の貴重な資料展示や勉強会を行い、佐渡の表玄関、湊地区の良さを島内外にアピールする。	湊商店会 会長 山口 裕
愛知県 南知多町	【愛島プロジェクト～島っ子の未来のために～事業】 島の漁業の歴史や文化を知らない若者や子ども達が増える中、篠島小学校の子ども達に島の文化を再発見してもらおうと同時に、島外に向けて漁業や島の魅力を情報発信していく。	篠島観光協会 会長 辻 隆司
愛知県 南知多町	【日間賀島ライフセイバー育成事業】 海の安全を提供するため、島の若者を中心としたライフセイバー育成と島での実践例を日本(地域)の実情にあった形として全国に発信することで、ライフセービングの認知度と地位向上を図る。	日間賀島観光協会 会長 鈴木 宏之
島根県 海士町	【水産加工施設を利用した「島の漁師の家庭の味」製品づくり事業】 地元の原材料をつかい、漁師の家庭で食されている「素朴でほんとうに美味しいもの」をコンセプトとした特産品の開発・生産・販売を通じ産業の活性化に資する。	水産加工グループ 海の駅松島 代表 藤田 忠弘
岡山県 笠岡市	【真鍋島の未来史発刊事業】 「まなべしま新聞」も平成19年7月で100号を迎える。この節目に10年の歴史の整理・保存と「未来に向けた新たな夢づくり編集会議」を開催し、応援者の声も聞き「真鍋島の未来史」発刊と情報発信を行う。	真鍋島新聞編集会議 編集長 森本 洋子
広島県 尾道市	【交流による百島みかん再生事業】近年の過疎化、高齢化によりみかん畑の荒廃、地域活力の低下が懸念されており、島外から「みかんづくり」参加の人材を募集し、島内有志と協力して地域住民の意識の改革、特産品づくりを目指す。	いきいき百島 世話役代表 藤田 武士
愛媛県 松山市	【忽那諸島・周防大島交流事業】 忽那諸島(愛媛)と周防大島(山口)が行政単位を越えて本事業をおこなうことにより、忽那諸島単位では出来なかった新しい島の魅力の創出や情報発信を行い、更に大きな規模で振興・活性化を図る。	松山離島振興協議会 会長 田中 政利
愛媛県 宇和島市	【日振島三世代ふれあい交流事業】 住民と愛媛女子短期大学の学生が、島の歴史、文化を学び、郷土料理体験、レクリエーションスポーツなど世代間を越えて交流し、新たな情報の島外発信や自然環境保護、整備問題を検討する。	日振島地域行政推進協議会 会長 笠岡 義雄
佐賀県 唐津市	【七つの島パソコン指導者養成事業】 玄海諸島七つの島のホームページ開設を機に、島のリーダーがパソコンの利用方法を熟知し、島内への波及とインターネットによる情報の共有化を図り、本土から島間及び島々間の交流を促進する。	NPO法人レインボー 七つの島連絡会議 理事長 久満 泰彦
長崎県 佐世保市	【宇久島のボランティアガイド養成事業】 観光に重点をおき、エコツーリズムの観点から島の自然、歴史、伝統文化等、各分野の有識者による養成講座を通し、住民から「ボランティアとしてのガイド」を募り養成する。	ぎばろう会 会長 本村 竹仁
長崎県 五島市	【五島うどん(ルーツ探求と新ダシ開発による三大うどん化)プロジェクト】 五島うどんがこれまでの評価や地位に甘んずることなく日本一の名譽を得るため、ルーツ伝説調査、『五島うどん物語』作成、主婦やプロシェフのコンテスト等を行う。	濱口 よしの
長崎県 五島市	【五島の自然資源利用推進人材養成事業】 島には染色用の草木が豊富かつ種類も多く材料の製品化も可能。資源の活用と染織技術の習得のための勉強会を立ち上げ、人材育成につなげるとともに都会に向けて発信する。	遊々舎 代表 永治 秀子
長崎県 五島市	【長崎4島交流による生き生きしま自慢事業】 県の「しま自慢観光人材育成プロジェクト」の中で、離島4島(壱岐、対馬、上五島、下五島)の代表者による「観光リーダーコース」の未来発展形の1つとして活動について意見交流する。	観光開発集団「アクロス五島」 代表 山下 律子
長崎県 小値賀町	【野崎島を世界一有名にする事業】 「世界遺産暫定リスト」に推薦された野崎島の自然・歴史文化を徹底解剖調査し、ガイドマップと体験プログラムをつくり、併せてガイドインストラクターを養成して、事業結果を広く公開・宣伝する。	おぢかアイランド ツーリズム協会 理事長 小辻 隆治郎
鹿児島県 西之表市	【たねがしま草木染プロジェクト】 島に自生する植物等により草木染の新たな商品化を検証する。沖縄の草木染の技法を学び、島独自の草木染を開発する。また、体験教室を開催し、島内外の人たちに種子島草木染を広めていく。	工房フロル 代表 河口 晶子
鹿児島県 西之表市	【種子島どんぶらこ島づくり交流事業】 第7回漂着物学会種子島大会が開催される。この機会を契機に、島内に散在する漂着物に係わる人、ものを集め、島内外の人たちと交流することにより、新しい島の文化を発掘する。	NPO法人ジュントス 理事長 有馬 寛治
鹿児島県 十島村	【トカラ馬飼育事業】 昭和40年代まで宝島で飼われていた鹿児島県天然記念物「トカラ馬」(現在、中之島に8頭いるのみ)をもう一度故郷である宝島に呼び戻し、飼育するとともに、島の魅力の一つに育てたい。	トカラ馬の会 代表 福島 隆志
合計	11都道県 16市町村 20事業	